

成田拠点 スト2日目

助役機関士によるスト破りを許さないぞ

日刊

動労千葉

81.3.4
No. 679

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(株)一九三五・六・八の電話(五七)七二〇七

完璧のスト実現に 自信あふれる組合員

成田拠点においては、スト第二日目の三月三日も、ジェット燃料列車は、動労千葉の指名ストによって一本も動かない完璧さをもって勝ちとられた。職場の意気は、いやが上にももえ上っている。二月二十八日以来、土屋基地には、一本のジェット燃料列車も入っていないのだ。組織の団結の力を皆実感をもってうけとめ確信を深めている。

『絶対にうちぬく・これは正しし闘いだからだ』——指名ストを闘った組合員の感想——

スト初日の指名ストを敢然と闘いぬいた組合員の感想の中にもそれがあふれ出ている。

機関士Aさん(41才)

『動労千葉がここでストをうたなくては永遠にストそのものもろくでせなくなってしまう。様々な妨害・敵対があるうがちぬく。労働運動の右傾化に抗し、真の労働運動の深化としなければならぬ。われわれ組合員には悲愴感はない。

機関士Bさん(37才)

『D1だけでやっているストだから、ちょっとさびしい感じだけどみんなの支援のもとで私は最後まで闘いぬく覚悟です。』

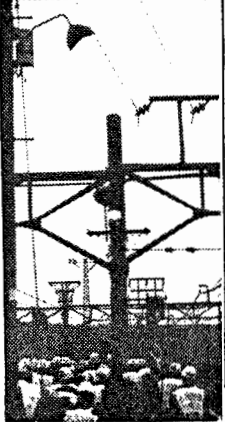
機関士Cさん(49才)

『ここまでできたからには、何が何でも最後まで闘いぬく決意だ』

助役機関士・「本部」裏切分子によるスト破りを、闘う戦線拡大をもつてうち砕け！

一方、「三月四日からは助役機関士を投入して、何としてもジェットを運ぶ」と公言した国鉄当局は、焦りから「本部」革マル反動分子と完全に一体化してスト破壊準備に全力をあげはじめているのである。

三月三日八時三〇分、佐倉の「本部」派機関士がスト破りで運転してきた三重連機関車が成田駅に到着した。待ちかまえた成田支部組合員の怒りに満ちた糾弾闘争が開始される。全く顔も上げられず、ましてや反論一つもできずただうつむいて、かけつけた当局白腕車の人垣にとりかこまれるように手厚く保護されている。この醜い姿を眼のあたりにして、新たな怒りがこみ上げる。「スト破りを許すな！」のシュプレヒコールに一段と力がこもる。



ところで、この「佐倉四〇五作業」の列車は、所定ならば、成田から更に北鹿島駅までゆき、そこで燃料列車を引っぱって再び成田駅に到着し、そこで成田運転区の作業にひきつがれて土屋基地にむかう(われわれの指名ストにより不可能となっているが)という作業のはずであるが、当局は、これをとりやめ重連のD151をそのまま成田駅10番線の継留線に入れ、そのまま「本部」派機関士をダンゴの様にとりかこんで、どこへやらつれ去り、点呼はおろか、ハンドルもカードも当直へ返しにもこ



三月三日、全国から九八〇名の即う仲間が結集し、動労千葉三月スト支援三決起した。

ないというデタラメな変則運用をやったのである。われわれは、動労千葉の糸乱れぬジェット指名スト、それによる燃料列車の完全ストップ実現の威力を充分確認すると同時に、このような変則運用をやっても、「本部」派スト破り機関士を引きまわし、当局のいいなりの柔順な手先としてとことん利用し尽して四日からのスト破り列車強行のための下準備に血眼になっている当局の反動的姿勢・意図をはっきりと見ておかなければならない。国鉄当局よ、あの憎むべきスト破り助役機関士を強行投入するな。やらせて見よ。われわれは、一三〇〇の固い確認のもと敢然と戦線拡大をもつて答えるであろう。動労千葉はもとより、心ある闘う国労組合員の仲間が決してそれを許さないだろう。万全のスト態勢を堅持し前進しよう。